

件 名：第7回 安倍川総合土砂管理計画フォローアップ作業部会 議事メモ

■ 日 時：令和3年3月16日（火） 10:00～12:00

■ 場 所：WEB会議

■ 議事内容

1. 今後の作業部会の検討方針について

- (1) 今後管理指標を検討していく中で、計画策定時に用いた条件（流出土砂量、流量等）に対して、近5年に蓄積されたデータを比較し、当初想定していた外力のトレンドとの違いを整理すると良い。
- (2) 短期的な土砂移動について総合土砂管理計画で検討していくことは、河川計画や砂防計画と整合を図る必要があると思われるが、短期的な現象のうち、総合土砂管理計画において必要な情報（中・下流領域や海岸領域への流出土砂量等）を明らかにした上で議論していくと望ましい

2. 土砂管理対策とモニタリング調査について

- (3) 令和元年には比較的大きな洪水が生起しているが、令和元年のモニタリングデータがない。短期的な変動を確認するためには重要なタイミングであったと考える。
- (4) 令和元年にモニタリングが無いことに対しては、総合土砂管理の目的でもあるように、大きなイベントがあった際には、機動的にモニタリングを実施していただきたい。
- (5) サンドボディは清水海岸よりも前進しているが、一方で安倍川の河口付近(No56～77)の浜幅は減少している。土砂管理指標による評価結果では問題ないとなっているが、必ずしもOKという評価ではないと考える。
- (6) 浜幅について、サンドボディが増えているが供給源が減っているためトータル量としては増えていない。目標とする浜幅が確保されていれば良いということではなく、減少していく傾向に対して注意する必要がある。
- (7) 海岸領域の浜幅のように、トレンドで把握していくことは良いと考える。1つの管理基準値で判断するのではなく、管理基準値の幅の中でもトレンドを見ていくことが重要である。減り続けていく・増え続けていくなど1方向の傾向は、土砂管理がうまくいっていない可能性を示唆しているため、注意深く経過観察するといった指標の立て方は良いと考える。
- (8) 土砂管理指標による評価結果を各領域の対策（事業メニュー）にどのようにフィードバックしていくかが重要である。土砂管理基準を下回りそうなトレンドがある場合の対応や、目標達成のためのアクション（事業メニュー）を見直すことを考えることが重要である

- (9) トレンドは重要であるため、作業部会で引き続き注視していきたい。土砂管理指標を次のアクションにつなげるという観点では、中・下流河川領域では掘削土砂量を増加させたところであり、その成果についても注視していきたい。

3. 土砂動態に関する課題解決に向けた検討について

- (10) 土砂生産・流出領域からの指標を検討する上でも重要であるため、LP 測量に関してはできる限り充実させていくことが重要である。
- (11) 令和元年は梅ヶ島地点の雨量に対して手越地点の流量が比較的小さいため、上流域に偏った降雨分布であった可能性がある。可能であれば、土砂生産・流出領域に近い上流域の流量データを比較して整理すると良い。
- (12) 土砂生産・流出領域と中・下流領域の土砂動態のデータについては、玉機地点でのつながりも含め、領域全体を複合して分析することが要である。
- (13) 玉機橋上流では、土砂が河道内を流下するのに数年かかっており、その年の降雨イベントだけでなく、上流からの河道内での土砂の伝搬を通して、数年かけてモニタリング指標に影響していることを示している結果である。土砂移動の時間スケールを把握する上でも、引き続き LP データの分析を進めていただきたい。また、支川領域での土砂動態の充実も重要なポイントである。

4. 新たな土砂管理指標（案）について

- (14) LP データを用いた生産土砂量は単純に流域全体の差分解析ではなく、崩壊地を抽出して差分解析を実施することが望ましい。面全体で差分解析すると誤差の影響が大きいため、重要なポイントに絞るとともに、誤差との兼ね合いも含めて指標に活用できるかを検討することが重要である。
- (15) 藁科川の各地点の河床高の推移から、藁科川から安倍川への流出土砂量の長期的な傾向が推定できると考えられる。今後、藁科川からの流出土砂量が安倍川に与えている影響を評価する際には、藁科川の河床高と安倍川本川の河床高との関係性を分析することで、管理指標について検討していければ良いと考えている。
- (16) 藁科川のシミュレーションについて、藁科川からの供給土砂量の設定が妥当であるか、藁科川直轄区間の河床変動が流出土砂量に影響を及ぼしているのかの視点で、計算と実績を比較していく必要がある。
- (17) 藁科川の上流域からの流出土砂量が減少しているとすれば、それを増加させる対策は難しい。将来の課題かもしれないが、供給土砂量が減少していることを踏まえた管理計画について検討していく必要がある可能性も考えられるため、まずは土砂動態の実態把握が必要である。
- (18) 河口テラスのモニタリングについては、モニタリング実施のタイミングも重要である。
- (19) 河口テラスのモニタリング基準については、モニタリングを実施し次にどのような対

策につなげていくかを考えながら検討する必要がある。海岸領域へ供給するストック源となること、河口閉塞した場合の影響への対応という視点で検討すると良い。

以上